

平成24年度 事務事業マネジメントシート

事業名	幼児ことばの相談室運営事業				会計	款	項目	大	小
					01	03	01	02	01 05
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）			主管課	障害者支援課			
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり			主管課長	増田 恒夫			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	就学前の児童で、ことばの発達に遅れがある児童	意図	ことばの遅れを解消または軽減すること。
事業内容	幼児期の発語の遅れや発音、吃音等の状態にたいし、言語聴覚士が専門的立場から症状の解消、軽減を行う。現在、流山市ケアセンター内で実施しており、つばさ学園の療育相談支援事業と連動して取り組んでいる。			
事業開始から現在までの状況変化	幼児ことばの相談室が開始された当初から見ると、言葉の指導を希望する児童は増加傾向にある。幼児ことばの相談室は単独で運営されていたが、平成16年度から流山市療育相談事業と連動し、運営が行われるようになり、効率的な運営になった。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成22年度	平成23年度	平成24年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
指標	① 指導延日数	220	225	216	日	→→	
	② 指導延人員	1,245	1,236	1,315	日	↗↗	
	③						
	④						
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ことばの指導を希望する児童が増加傾向にあるため、指導時間の枠を増やしている。
事務事業のコスト		平成22年度	平成23年度	平成24年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		8,733,160	9,203,393	8,726,948			
事業費(b)(円)		8,363,060	8,824,593	8,368,048			
うち一般財源		8,363,060	8,824,593	8,368,048			
職員給与費(c)(円)		370,100	378,800	358,900			
人役・職員(人)		0.05	0.05	0.05			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H24)の改善計画	ことばの相談室利用児童に対する個別支援計画の充実を図る。	③取り組みの課題	言語聴覚士の言語指導と個別支援計画などを作成する時間の確保が難しくなっている。
②今年度(H24)に実施した取り組み	個別支援計画書を半年に1回評価し、利用児童の成長を保護者の方と確認した。	④今後の改善計画	現在の言語聴覚士の雇用形態の改善、職員としての配置などが必要と考える。